会議議事録

第４回義務教育学校整備検討委員会

日付	令和６年１１月１２日（火）
時刻	１８時００分～１９時３０分
場所	厚沢部町図書館　視聴覚室

出席者等（敬称略）

委員長　　香川　直樹（厚沢部中学校学校運営協議会長）
副委員長　近藤　良信（社会教育委員長、民生児童委員）
委員　　西山　訓央（保護者代表）
　　中野　健二（北海道建設技術センター職員）
　　山田　克哉（館小学校学校運営協議会会長）
　　木村　千津（保健福祉課長）
　　中井　文夫（文化協会会長、子育て支援アドバイザー）
　　川口　　豊（鶉小学校学校運営協議会会長）
　　久慈　　学（厚沢部小学校長）
　　玉置　英樹（町校長会長、町教研会長）
　　宮嶋　謙次（こども園保護者代表）
　　八重樫明美（鶉小学校保護者代表）
　　木口　孝志（政策推進課主幹）
　　太田　滋子（社会教育委員副委員長、人権擁護委員）
　　橋端　純恵（保健福祉課主幹）
事務局
　　髙野　政人（教育長）
　　二宮　和之（事務局長）
　　太田　聡子（教育委員会事務局主幹）
　　石井　淳平（教育委員会事務局主幹）
　　加藤　一義（指導主事）
　　山田　蒼良（学校教育係）
委員欠席者（敬称略）
　　安田　　光（総務財政課長）
　　尾山　浩崇（厚沢部小学校学校運営協議会会長）
　　髙田　一弥（厚沢部商工会会長）

支援業務委託先
　　平井聡一郎（未来教育デザイン）

議事内容

1. 開会

事務局長より本日のスケジュールについて説明があり、委員会が開会されました。

2. 議題1: 先進事例紹介（帯広市立大空学園義務教育学校）

大空学園義務教育学校の髙橋校長氏より、大空学園義務教育学校についての説明がありました。

(1)大空学園の運営体制と概要

ア　学校組織：校長、副校長、教頭を含む75名体制で運営され、初等部（1～4年生）、中等部（5～7年生）、高等部（8～9年生）と分かれている。

イ　学年の指導と運営：各学年には担任・副担任が配置され、学年ごとに指導方針と教育支援が実施されている。

ウ　学校目標：義務教育学校としての目標は10年計画で、今年度は3年目。10年間での達成を目指し、節目には保護者や地域の意見を取り入れる方針が示された。

(2)教育プログラムと特色

ア　「レインボー」プログラム：7つの特色ある教育プログラム「レインボー」が展開されており、ホームページで詳細を公開中。学習指導は各部で教科担任制を一部導入し、5年生以上では中学生と同様の定期テストも実施。

イ　PTAと行事：PTA活動は統合され、1年生の入学式と9年生の卒業式に加え、4年生の「夢の式」や6年生の「立志式」などが行われ、学年ごとの成長の節目を祝う行事も整備されている。

(3)学校行事・クラブ活動

ア　フェスティバルと修学旅行：体育と文化のフェスティバルを小中学校合同で開催。6年生と9年生で修学旅行を実施し、5年生から部活動への参加が可能となっている。

イ　学習時間と時間割：授業は5年生以上が50分間に統一。小学生と中学生の活動を調整するため、時間割が統一され、適度な休憩と昼休みを取り入れる工夫がされている。

(4)総合学習と地域連携

ア　大空市民学：地域の施設を活用した「大空市民学」を総合学習の一環として導入。地域資源を生かしたカリキュラムで、地元密着の学びを進めている。

(5)質疑応答

ア　教育プログラムについての質問： 教育プログラム「レインボー」について、具体的な内容や達成目標についての質問があり、学校側からは、プログラムの概要や具体的な活動について説明があった。また、プログラムの詳細はホームページに掲載していることが確認された。

イ　学校行事に関する質問：行事の運営方法や学年を超えた連携について質問があり、学校側は、小中合同のフェスティバルなどを通じて一体感を醸成していること、また行事によって生徒の意識や成長を促す工夫をしていると回答。

ウ　時間割と授業時間についての質問：授業時間の調整方法についての質問があり、5分の休憩を多く取るなどの配慮で、小学生・中学生の時間割を統一しながらも柔軟な運営をしていることが説明された。また、放課後の時間が短縮される分、中休みや昼休みの時間を活用していると補足された。

2.議題2:グループワーク（基本方針について）

３つのグループ（教育目標、教育内容、施設方針）に分かれ、ワールドカフェ方式で話し合いが行われました。

(1)教育目標グループ

ア　生徒の学力が高い一方、自己表現力が不足しているため、自己表現を促進する目標が必要。
イ　個性的な生徒の存在の重要性、地域社会との連携を通じた教育目標の設定が必要。
ウ　地域にとって魅力ある学校づくり、統合による教育の特色を維持すべき。
エ　統合に伴う教科担任制や地域性の違いが課題として予測される。
オ　教育目標に将来的なリスクの解決手段を含めるべき。
カ　義務教育学校化による小・中学生間の役割変化や教員の専門教育の進展に期待する。
キ　教員免許の制限などの課題がある。
ク　ICT 教育はコンピュータの使い方だけでなく、交流のための活用が重要である。
ケ　親の期待や地域の価値観を尊重、学力以外のスポーツや個性の発達も考慮すべき。
コ　教育目標 2 の「グローバル化」の文言への違和感、子どもたちが将来「厚沢部に志を果たしに帰る」ような目標設定が必要。
サ　大学試験の暗記型から理解力を重視する傾向への対応、柔軟な思考力や自主性を育む教育を目指すようにすべき。
シ　従来の価値観にとらわれない子どもの必要性がある。
ス　学校教育だけでなく、行政全体で子どもたちの成長を支援し、卒業後も地域とつながりを持てるような支援体制が重要。

(2)教育内容グループ

ア　基礎学力の充実についてが重要。
イ　低学年は国語・算数をメインに、理科・社会は 3 年生から導入を検討すべき。
ウ　ICT は手段であり、基礎基本である国語・算数・英語を優先すべき。
エ　9 年間を見通した系統的な ICT リテラシー教育が必要
オ　各発達段階に応じた ICT 活用方法の検討が必要
カ　9 年間の目標を明確化し、数値目標などを設定すべき。
キ　厚沢部町ならではの教育の特色を明確化する必要がある。
ク　教員のコアチームでの具体的内容の検討が必要
ケ　学校行事も 9 年間を通しての計画を検討すべき。
コ　授業時間については、中学校に合わせて 45 分授業を検討するとよい。
サ　時間割はスクールバスの運行時間との兼ね合いも考慮すべき。
シ　海外の 9 年間教育の事例を参考にするとよい。
ス　ノーチャイム制の導入も検討したい。
セ　縦割り活動の導入を検討したい。
ソ　目安となる検定の活用も検討したい。
タ　地域学習や総合的な学習を 9 年間通して実施するように計画を立てるべき。
チ　ゴールから逆算した教育課程の設計が必要
ツ　教科等横断的な学習の導入が必要。
テ　自己効力感を育む教育が必要。
ト　習熟度レベル表の作成を作成すると良い。
ナ　国の方針の周知徹底が必要である。
ニ　道徳教育の難しさがあるので検討が必要

(3)施設方針グループ

ア　改修と新築では費用はあまり変わらない。
イ　小・中・町民で共有できるものをどの程度共有するのかを考える必要がある。
ウ　防犯は徹底する必要がある。（町民が入れるような場所と児童生徒の空間を隔てる。）
エ　特別支援等もあるため、子供の数は減少するが、部屋の数は多い必要がある。
オ　フリーに使える部屋が必要である。
カ　通学の利便性が大切。
キ　理想は民有地ではなく、町有地。民有地は購入時手続き等や転用の手続き等が必要で計画しても実現できないこともある。

ク　建設の候補地としては、現在の厚沢部小学校、厚沢部中学校、赤沼地区、鶉小学校、給食センターの付近、緑町、旧館中学校が候補としてあげられる。
ケ　災害に強い土地に建てる必要がある。
コ　実際に委員が現地を見にいく視察研修の必要がある。

5. 閉会

最後に、委員長より、今後の活動の協力のお願いが述べられ、閉会となりました。

次回の会議　　令和 6 年 12 月 17 日（火）